UIFAニュース

発行　宇治市国際親善協会
事務局　〒611－8501　宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書広報課内
電　話　0774－22－3141（内線2058）　FAX　20－8776
Eメール hishokohoka@city.uji.kyoto.jp
ホームページ http://uifa.news.coocan.jp

第 78 号
平成29年（2017年）3月

♦♦♦♦♦♦♦ 友好都市ヌワラエリヤ市を訪問 ♦♦♦♦♦♦♦

当協会の会員で編成するヌワラエリヤ市訪問団（団長・今川博含む22名）が、1月15日から1月23日までの日程でスリランカを訪れ、1月16日から18日の間、宇治市の友好都市ヌワラエリヤ市を訪問しました。

17日には、ヌワラエリヤ市長や市議会議員、さらには知事も出席されるなど、大勢の方のお出迎えの中、歓迎式典に出席し、国歌斉唱や国旗等の掲揚など盛大に執り行われ、予想もしないほどの熱烈な歓迎を受けました。その後、今回のメンバーでもある城島氏（現協会副会長）が30年前に日本庭園を作庭されたヴィクトリア公園を訪れ、全員で植樹を行いました。また、現地の小・中学校にサッカーボールの寄贈や、茶畑・製茶工場の視察、夜にはヌワラエリヤ市主催の晩餐会に出席するなど、交流を深めました。

ヌワラエリヤ市を離れた後、世界遺産のシギリヤロックを全員で登山、キャンディーなどを観光しました。参加した２名の団員の訪問記をご紹介します。

友好都市ヌワラエリヤ市の訪問を終えて

訪問団長　今　川　　博

今年１月15日～23日の間で友好都市スリランカ国・ヌワラエリヤ市を訪問する機会を得た。出発の朝は数年振りの大雪、市役所に集合するのも難儀という状況で先が心配されるような出足であったが、その後は全てすこぶる順調、体調を壊す人もなく無事に今回の訪問を終えることが出来た。

さて、今回の訪問目的は

①友好都市盟約30周年記念の友好訪問

②スリランカ国・ヌワラエリヤ市の現地情報の収集と将来の交流のあり方の調査

前者については予想をはるかに超える盛大な歓迎であり、感動、感激の連続で、次回ヌワラエリヤ市からの訪問を受け入れる際、どのような「おもてなし」をすればいいのか、心配するほどの歓迎であった。宇治市からの訪問が23年ぶり（現在の幹部にすればまさに初訪問に等しい）、今回の訪問が30周年の記念事業であることからこのような盛大な受け入れになったものと思われるが、いずれにしても感謝にたえない歓迎であった。

後者については、ヌワラエリヤ市はもとより、訪問した地域（特に南西スリランカ）の治安は勿論、いずれの地域でも出会う人たちの笑顔が旅の楽しさを倍加させてくれた。宇治市も観光都市を目指している。「訪問者に対する市民の笑顔」が何よりの財産と感じる訪問でもあった。

訪問者にとっての心配ごとは「治安」「水」「食事」「ホテルの清潔感と設備」等が挙げられるが、ヌワラエリヤ市は勿論、我々の訪問した地域においては、これらのすべては杞憂のことであり、なんの心配もなく過ごせると確信した。今後の交流の在り方をどうすればいいのだろうか？

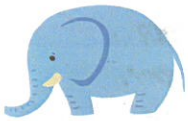
先方からの宇治市訪問は間違いなく今後も継続されると思うが、未だ当面は選ばれた人（市幹部や富裕層）が中心で、カムループス市のように市民が参加するには時間がかかると思われる。

一方宇治市民の訪問について考えると大変に魅力ある企画になると確信する。問題点を挙げるとすれば、

①宇治市から大挙（20～30人）して訪問団が行った場合、先方の財政負担が懸念される。

②ヌワラエリヤ市に日本語の通訳が準備出来ないようである。今回は団員の二人が、日本側のスピーチは勿論、先方のスピーチも通訳を行った。従って訪問に当たっては数名英語の出来る人を同行させる必要がある。

サッカーボール贈呈後の記念写真



初めてのスリランカ

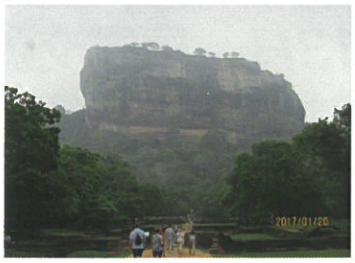
訪問団員　山　本　隆　子

台北、香港の乗り継ぎを経てコロンボの予定のホテルに到着したのは0時を回っていた。2日目、専用バスでネコンボ市内を観光しながらピンナワラにある象の孤児院を訪ねた。ジャングルで親を亡くしたり、はぐれてしまった子象や怪我をして野生に戻れなくなった象達を保護し、できるだけ自然に近いかたちで飼育されている。外国人の入場料はそのゾウ達の餌代に使われているとのこと。

緑の多い狭い道路をヌワラエリヤ市に向かった。一番気に掛かったのはどの車もスピードを出して走ること。車同士の離合時には半端ない近さを巧妙にすり抜けていく。昔の三輪車を改造したトゥクトゥクが大活躍で丘陵地帯の高地(標高 1,890 メートル)をバスに負けまいと走っていた。赤、緑, 黄色、ブルーと楽しい色ばかりだった。バスには速さが劣るバイク、トゥクトゥク、小型車をバスが追い抜く時は頻繁にクラクションを鳴らす。昼食後の眠気もこのクラクションで覚めてしまった。急斜面に建築中の家々や茶畑を見ながらの約5時間のバス旅行は、夕方の7時頃のホテル到着で終わった。

ヌワラエリヤ市との友好都市交流会は、製茶工場の見学も含めて2日間にわたり盛大に行われた。スリランカは南アジアではトップの識字率を誇る。スリランカには様々な民族集団が存在し、多くの学校ではシンハラ語、タミル語、英語で授業が行われている。スリランカの教育は無償である 。これはスリランカがイギリスより独立する時に教育の民主化の思想から生まれた制度であり、羨ましい制度だ。小学生たちの白い制服が目についた。

スリランカの気候は季節によるが朝夕が涼しく昼間は30度近くまで上がる。体温調節が欠かせない。



世界遺産も沢山見ることができた。シギリヤロック、仏歯寺、ポロンナルワ、ダンブッラの石窟寺院、キャンディの王朝遺跡、ホートンプレインズ国立公園（世界自然遺産）等、どれをとっても大いに見応えがあった。

また、宇治茶とは違う茶摘みの方法やお茶の木の管理方法など気候に合わせた、長い歴史を経て其々のお茶が作られたのがよく理解できた。急斜面での茶摘みは、10キロ近くもの茶葉を背中に担ぎつつ体のバランスをとりながらの作業は、結構キツイ仕事だ。

友好都市ヌワラエリヤ市との交流、4つの世界遺産を巡る今回の旅行は実に充実した旅であった。

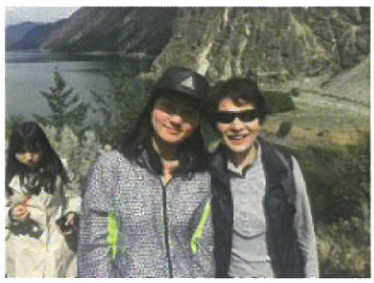
自然を愛するおおらかな人々

カムループス市・トンプソンリバーズ大学
平成28年度市民留学生　山　田　博　恵

山と湖で出来ている美しすぎる国・・・それがカナダに対して私が感じた印象です。カムループス市は、そんなカナダの魅力を存分に楽しませてくれる静かな町でした。数々見た美しい景色の中でも、学校が主催する週末の日帰り旅行でバンクーバーに行った帰りのバスの窓から見たカムループス市の夕焼けの空は忘れられません。赤とピンクと橙と紫と黄色の濃淡が不思議に混ざり合って神々しさをも感じさせる壮大なパノラマに息を呑みました。カムループス市では、ほとんどの家が地下のある一階建てで、そのためスカイラインが低く抑えられています。街のどこからでも、市を取り巻く山並みが見渡せるのは本当に素晴らしかったです。私のステイしていた家では、居間からも台所からも徐々に暮れゆく夕方の空を眺めることが出来ました。それにしても、あれだけの景色に囲まれながら、それでも多くの家にはキャンピングカーがあり、週末には更なる手つかずの自然を求めてキャンプに出かけたりするのですから、自然を愛する心は彼等の遺伝子に組み込まれているのかと思うほどです。

人々は、皆親切でした。家に携帯を忘れていった私をずっと心配してくれていたホストマザー、宇治市訪問団のお手伝いの後、自宅に呼んでディナーをご馳走して下さったカムループス市の職員の方、垣根越しに道を尋ねれば仕事の手をやめて、「送っていってあげるわよ。」と車のドアにもう手をかけて下さっている女性。バスを降りる時は運転手さんに“Thank you.”と声をかけるのが慣習なのですが、必ず“Have a nice day.”と優しい答えが返ってきます。“You're welcome.”という言葉もよく聞きました。外国に行って時々感じる不安感、緊張感というものをカムループス市で感じることはありませんでした。皆なんとなくゆったりしていました。大きな自然が、おおらかなカナダ人を育んできたのでしょうか。

でも、おおらかさが時に大雑把につながる面もあります。約束の9時に学校の事務所に行けば、「いま会議中だから少し待ってね。」と言われ、結局40分も待たされたり、あるはずの授業がなかったり。ホストマザーも、約束時間に歯医者に行ったら「今日はお休みします。」という張り紙がしてあった等と言っていました。日本人ならこんな時、目くじらを立てて責め立てたりするのでしょうが、それほど怒っている様子もありませんでした。個人差はあるでしょうが部屋の掃除もあまり丁寧にはしません。月曜日にはもっとゆっくりしたいと休みを取る人が多いとも聞きました。「几帳面な人はカナダへの移住は向かないよ。」と現地に長く住む日本人が言っていました。



3ヶ月半という短い期間にこれだけ様々な国の様々な人と話をした経験はありません。その度にいつもとは違う何かを感じ、自分を見つめ直すきっかけとなりました。言葉では言い尽くせない貴重な経験を与えて下さった宇治市とカムループス市に心より感謝申し上げます。

5月13日　国際交流講演会を開催
『友好都市 スリランカ・ヌワラエリヤ市を訪問して』

平成29年度宇治市国際親善協会総会を5月13日（土）、宇治市生涯学習センターで開催します。総会の開催前に、恒例の「国際交流講演会」を開催します。

今回は、1月15日から23日にかけて宇治市の友好都市であるスリランカ・ヌワラエリヤ市への訪問団に参加された小山茂樹さんに、『友好都市 スリランカ・ヌワラエリヤ市を訪問して』をテーマに講演していただきます。

スリランカの紹介に始まり、シギリヤロックなどの世界遺産、お茶と紅茶、そしてヌワラエリヤ市に関する情報を、実際に行かれた体験を踏まえお話しいただきます。

講　師　小山　茂樹（ヌワラエリヤ市訪問団 顧問）
日　時　平成29年5月13日(土)　14:00～15:20
場　所　宇治市生涯学習センター第2ホール
定　員　先着70人　参加費　無料

※宇治市国際親善協会員以外の方もご参加いただけます。
　お誘いあわせのうえご参加ください。
※講演会終了後、宇治市国際親善協会総会を行います。

ホストファミリー募集！

宇治市の友好都市カナダ・カムループス市にあるトンプソン・リバーズ大学の先生と学生が、5月20日（土）から5月24日（水）にかけて宇治市を来訪される予定です。

宇治国際交流クラブのご協力のもと、ホームステイでの受け入れを検討しておりますが、ホストファミリーが不足した場合にご協力いただける方を募集します。興味がある方は事務局までご連絡ください。ご応募いただいた方には、事務局よりホームステイの受け入れについてご連絡を差し上げ、相談させていただきます。

なお、宇治国際交流クラブの受け入れ可能者数等を踏まえ検討致しますため、ご応募いただきましても、ご希望に添いかねる場合もございます。予めご了承ください。

雑観雑感　地球はひとつ、国を超えた交流の輪を

第45代アメリカ大統領に就任したトランプ氏の言動が大きな波紋と反発を招いている。

アメリカファーストのスローガンは排他的なアメリカオンリーとしか映らない。大国の役目には、世界の秩序ある強調にリーダーシップを発揮することも求められる。 国際社会でのアメリカへの信頼低下と国レベルでの対立が懸念される。

宇治市国際親善協会は、1987年3月に設立され、30周年を迎えた。相手国の国内事情で、長らく宇治市からの訪問が途絶えていたヌワラエリヤ市への訪問団が23年ぶりにスリランカを訪れ、想像以上に大歓迎を受け、多くの市民の笑顔のもてなしに感激して交流を深めることができた。懸念された治安も内戦終結から8年が経過し、全く心配ない状態に回復している。今後、宇治市からの訪問再開に期待したい。

一方、新たな国際交流の輪が数多くある。協会ができたラオス国、東宇治高校から芽生えたタイ国、大使館を通じたラブコールに市民訪問団が訪れたハンガリー国ペーチ市など多くの交流が始まっている。トランプ暴風が吹き荒れる国際社会で、国による外交とは別の、市民による友好交流が求められる。

宇治市の友好都市「中国咸陽市」からはしばらく来宇が途絶えており、来宇されるのも行政関係者のみの現状を考えると、両市間の友好都市盟約締結までの形式とは別に、公式訪問団の相互派遣も規定せず「お互いの市民が訪問した時にはよろしく」程度の友好協定が結べないものだろうか。2020年の東京オリンピックを控え、新たな国際交流の在り方、相互訪問交流の在り方等、国による外交とは別の、市民による親善交流の在り方を考え、国境を越えた全ての来宇者を笑顔でもてなす交流こそが国際親善協会の役割だと想う。(I.K)